

染色はMay-Giemsa染色です。正常赤血球の大きさ(直径)8 μ mとします。
 評価方法は、正解回答を評価A、許容正解を評価B、不正解を評価Dとしました。

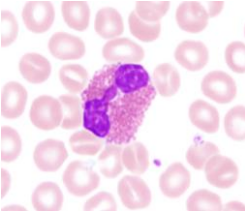
No.1



正解：005 好中球桿状核球	回答数	回答率(%)
005 好中球桿状核球	45	100.0

桿状核球は直径12~15 μ m、細長く曲がった核(ソーセージ状)を有し、核の長径と短径の比率は3:1以上とされる。
 核クロマチンは粗剛で一部塊状を呈し、好中性顆粒は細胞質全体に充満する。

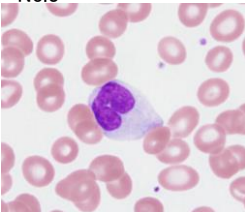
No.2



正解：008 成熟好酸球	回答数	回答率(%)
008 成熟好酸球	45	100.0

成熟好酸球は、直径13~15 μ m、核は2~3分葉のものが多く、細胞質には橙色の粗大な好酸性顆粒を有する。原則として核が被ることはない。

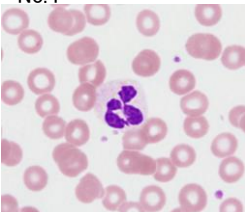
No.3



正解：051 単球	回答数	回答率(%)
051 単球	45	100.0

単球は、通常正常末梢血でみられる白血球の中で一番大きく、直径15~20 μ m、細胞質の色調は灰青色を呈する。細胞質には微細なアズール顆粒と空胞を認めることがある。核は通常馬蹄形ないし腎臓形で切れ込みを持った核形不整が特徴であり、核クロマチンは微細網状(レース状)である。

No.4



正解：006 好中球分葉核球	回答数	回答率(%)
006 好中球分葉核球	44	97.8
017 顆粒球系異常細胞 顆粒消失を伴う好中球	1	2.2

分葉核球は、核糸の存在をもって定義される。ただし、核の最小幅部分が十分に狭小化した場合は、核糸形成が進行したとみなして分葉核球と判断する。事実上400倍で、核の最小幅部分(a)が最大幅部分(b)の1/3未満、あるいは赤血球径の1/4(約2 μ m)未満であれば核糸形成とみなす。核が重なり合って分葉核球か桿状核球か明確でないときは分葉核球と判定する。

No.5



正解：159 巨大血小板	回答数	回答率(%)
159 巨大血小板	44	97.8
111 網赤血球	1	2.2

通常の血小板は直径約2 μ mである。通常血小板より大きいもの(4~8 μ m)を大型血小板、8 μ m(正常赤血球大)を超えるものを巨大血小板と判断する。
 網赤血球は超生体染色により網状構造物を有する幼弱赤血球で、細胞全体はわずかな青みを帯びている。

No.6



正解：003 骨髓球	回答数	回答率(%)
003 骨髓球	40	88.9
004 後骨髓球	1	2.2
062 顆粒リンパ球	1	2.2
063 反応性(異型)リンパ球	3	6.7

骨髓球は直径:12~20 μ m、N/C比:30~50%程度で類円形の核を有する。核小体は認めず、核クロマチン構造は粗剛である。細胞質には特異顆粒(二次顆粒)を認め、青色が薄れ、アズール顆粒は残存してもよい。
 後骨髓球は直径:12~8 μ m、N/C比:20~40%程度で、核の陥凹を認める(核の長径と短径の比は3:1未満)。核クロマチン構造は粗剛で一部塊状となり、細胞質はほとんどが特異顆粒で占められる。

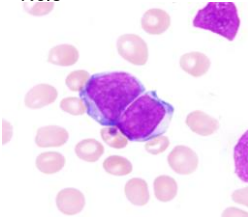
No.7



正解：061 リンパ球		回答数	回答率(%)
061	リンパ球	44	97.8
063	反応性(異型)リンパ球	1	2.2

リンパ球は直径9~16 μ mで細胞質は比較的広いものから狭いものまでである。色調は淡青色から青色を呈する。なお、アズール顆粒を認める場合がある。核は類円形で、核クロマチンは集塊を形成し、クロマチン構造が明らかでない。

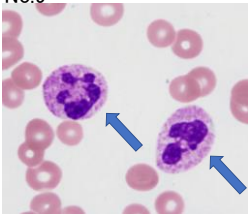
No.8



正解：001 骨髄芽球		回答数	回答率(%)
001	骨髄芽球	36	80.0
015	顆粒球系異常細胞 アウエル小体を有する骨髄芽球	1	2.2
063	反応性(異型)リンパ球	6	13.3
065	腫瘍性(異常)リンパ球	2	4.4

AMLの末梢血液像に認められた骨髄芽球。骨髄芽球は大型で核はほぼ中心に位置し、核クロマチンは網状繊細でやや白みがかった核小体を有している。細胞質は好塩基性でアズール顆粒は認められない。

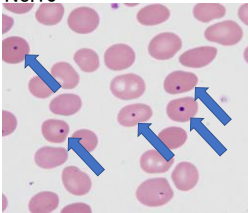
No.9



正解：019 顆粒球系異常細胞 中毒性顆粒を伴う好中球		回答数	回答率(%)
019	顆粒球系異常細胞 中毒性顆粒を伴う好中球	43	95.6
014	顆粒球系異常細胞 過分葉核好中球	1	2.2
018	顆粒球系異常細胞 偽ベルゲル核異常を伴う好中球	1	2.2

中毒性顆粒は重症感染症やG-CSF投与でみられ、前骨髄球のときに出現したアズール顆粒が成熟好中球細胞質内に残存したものである。

No.10



正解：128 ハウエル・ジョリー小体		回答数	回答率(%)
128	ハウエル・ジョリー小体	45	100.0

ハウエル・ジョリー小体は核膜の遺残物で細胞分裂時に出現する紡錘系に由来するとされており、円形状で0.5 μ m以下の大きさである。摘脾後、機能的無脾状態、巨赤芽球性貧血、MDSなどで見られる

今回、10問中8問は正答率90%以上の回答でした。問6及び8がそれぞれ正答率88.9%、80.0%と低い結果になっています。各施設、不正解であった細胞は再度確認をお願いいたします。